

入居企業紹介

その59

毎月、SICに入居された企業をご紹介します。

SIC-1 326

ヤマザキ材料開発研究所

～接着材料のエキスパート!～



現在は、エレクトロニクス関連における新規接着プロセスの開発やリチウム電池、キャパシタ関連の部材開発及び技術サポートを行っている。

『接着』をコアに多様な局面で利用、活用されている接着材を他の企業と共に開発を行っている。

■一番苦労していることは?

いかに経営基盤を確保してゆくか、この点については、これまでのネットワークを活用し、各種開発を行い、特許を共同出願する等の技術的価値を高める手法で経営を推進していく予定である。

■これからの夢または目標は?

これまでの開発や企業の活動は、一社の勝者とそれ以外の敗者を作り出している過酷な状態。それぞれが協力し、お互いの価値を高めながら、社会的意義のある新たな価値を創造してゆくことに貢献したい。

■代表プロフィール

山崎 哲(やまざき さとし)さん。
静岡県沼津市生まれ。学生時代から相模原市に在住。
奥様と2人の娘さんとの4人家族。
趣味はハイキングや読書。
学生時代から自然が好きで、丹沢辺りを歩く。

■起業しようと思ったきっかけは?

これまで30年以上に渡り、接着剤メーカーに勤務し、電子関係の接着材料の開発に従事してきた。2008年2月に前職を定年退職し、今回、会社の枠組みにとらわれず、これまで培ってきた人脈を活かし、人と人のネットワークで本当に世の中に求められる材料を開発すべく「ヤマザキ材料開発研究所」を設立した。

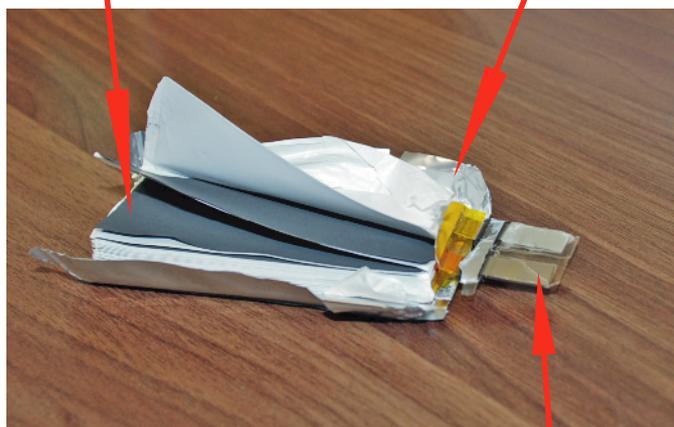
当初は都内での事業活動を行っていたが、この3月に地元の相模原にあるSICに移転。

■事業紹介

『接着』を基幹技術とし、新材料・新プロセスの開発を志向している。

電極集電体

AL ラミネート包材



タブリード

写真上: 分解したラミネート型リチウム電池

【お問い合わせ先】

ヤマザキ材料開発研究所
SIC-1 326号室
TEL: 042-770-9143 FAX: 042-770-9157



SICからのお知らせ

石川の東海道 道中記 第7回

—平成21年3月8日(日) 宮宿～津島—

「ニュービジネスリーダー」育成セミナー

SIC 経営塾

塾生募集

「時代に打ち勝つ『経営力』が求められている」

激変の時代にあっては、景気の波に左右されない、時代に打ち勝つ経営力こそが、企業の成長の鍵となります。

2009年『SIC 経営塾』塾生を募集しています。(詳しくはHPをご覧ください。)

- 開催期間 平成21年6月～平成22年1月(全11回)
- ◆募集人員 15名
- 対象 経営者または経営幹部
- ◆受講料 178,500円(消費税、一泊二日の合宿費を含む)
- お問い合わせ: SIC-2 中村(内線2004)

SICの四季



母子草



↑ アマリリス
5月にもう一つの斑入りの花が咲きます。

母子草(ハハコグサ): 学名 *Gnaphalium affine*。菊科。春の七草のひとつの御形(ゴギョウまたはオギョウ)。別名「ほうごぐさ」。平安時代、3月3日の上巳の節句(今の雛祭り)に母子草を混ぜた母子餅を食べる習慣があり、身の穢れを清める節句で、母子草の香りや薬効が邪気を祓うと考えられていた。後世になると、「母と子」を一緒に搗くのは縁起が悪いと言われ、蓬(よもぎ)が主流になった。花言葉は「いつも思う」「温かい気持ち」。



昨日は日没で宮宿を見学できなかったので金谷駅から伝馬町まで行き、7:20より姥堂・ほうろく地蔵を巡る。宮宿は熱田宿とも言われ熱田神宮の門前町として街道一の規模を誇ったそうだ。次の桑名宿へは直接舟で渡る(海上七里)か、天候の厳しいときや船旅に弱い人は佐屋まで陸路を歩きそこから渡る(海上三里)旅路がとられた。渡し場は「宮の七里の渡し」と呼ばれ、渡し場跡には常夜燈と蔵福寺の時の鐘が復元(写真)され当時を偲ばせる。

現在、船便はないので、桑名まで電車で行く方法もあるが、「完全踏破」を考えているので、歩道橋を渡り熱田神宮を右に見て佐屋街道を歩き始める。新尾頭の道標を左折して五女子・鳥森と進むこと1時間30分で岩塚宿に着く。多少古い町並みがあるも、宿の外れに八幡社があり小休止。次なる万場宿へは庄内川を舟渡していたそうで、川辺の秋葉神社に常夜燈が残っている。万場大橋を渡り万場宿の国宝神社、すぐ先には聖徳寺から移設した山門の光圓寺がある。東名阪自動車道をくぐると「恥ずかしながら生きて帰ってまいりました」が帰国第一声であった横井庄一氏の居宅が今は記念館になっている。当時、戦後生まれの小生にとっても衝撃的なニュースであった。秋竹橋を渡ると七宝焼の産地へ入って行く。役場北交差点には「七宝焼原産地」の道標が立っている。

神森宿は一里塚が出迎えてくれ、旧道へ曲がるとタイムスリップしたように静かな家並みとなり、今日一番の雰囲気に残る宿場であった。

埋田追分には石造りの津島神社「一の鳥居」があるが、昭和34年の伊勢湾台風で根元の石だけで鳥居部分は流失し、被害が甚大であったことを物語っていた。佐屋まではあと4k程であるが13:30となり、名鉄津島駅より帰路に着いた。今日の距離は19k づく

【今月の経営スケジュール(参考)】

経理: 4月源泉税・地方税納付、決算業務、給与計算・試算表作成、請求、支払業務
 税務: 確定申告、法人税等納付、申告期限諸届 登記: 役員変更(任期満了年度)
 社会保険・労働保健: 労働保健申告、保険料の支払い(1年分)

2009年5月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	1 会議室7月分 予約受付開始	2
3 憲法記念日	4 みどりの日	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9 *SIC-1 *SIC-2 電気設備法定点検
10	11 SIC-2 窓ガラス清掃 *SIC-1 エレベーター点検 ガラス清掃	12	13	14	15	16
17	18	19 SIC-2 空気環境測定	20	21	22	23 SIC-1 床面定期清掃
24 31	25	26	27	28	29	30

* エレベーター点検 SIC-1 11:00~11:45の間はご利用になれません。
 * 電気設備法定点検 SIC-1 8:30~11:30(9:00~11:30 全館停電)
 SIC-2 12:30~17:30(14:00~16:30 全館停電)となりますので、ご了承願います。お問い合わせは 生井(内線1116)まで



青山学院大学

理工学部長
辻 正重 氏

相模原市から本学には、平成16年4月の「青山学院大学と相模原市の連携による地域産業活性化に関する協定書」により、さまざまな形でのご支援ご理解をいただいています。

私どもの拠点である相模原市淵野辺の相模原キャンパスは、充実した施設・設備が整う国内有数の研究環境だと自負しています。研究対象分野はナノテクノロジーや物質創成、遺伝子工学など幅広い最先端の分野の課題と直結しており、研究室では新たな可能性を探るホットな研究が続けられています。高度な分析技術を誇る「機器分析センター」では、企業が開発した物質の成分分析、構造解析に関する技術指導などの依頼に応える形で、活動実績を数多く積み重ねてきました。多様な境界領域を研究対象としているため、既成の学問領域にとらわれない先端技術開発を行っており、例えば以下のような10テーマがあります。



- ・マテリアル系
- ・ナノ分子系
- ・環境・省エネルギー系
- ・ライフサイエンス系
- ・デザイン・セーフティ系
- ・マネジメント系
- ・航空宇宙系
- ・通信・情報系
- ・医療系
- ・理論・基礎系

現在、国の取り組みとして、“大学と地元企業との連携による地域貢献”が重要論点に取り上げられております。また神奈川県でも重点方針として“大学力”と“理工系人材”の養成を掲げています。

私どもは、産学官連携を刺激として、互いに切磋琢磨しながら、より具体的な教育・研究を通じた産業振興、地域連携のネットワークを構築し、相互の更なる発展を図りたいと思っています。そのために、首都圏南西地域産業界の皆様ならびに相模原市と本学部・研究科のコミュニケーションを深め、相互の問題認識・課題等について共有するとともに、優れた人材育成のため共同して取り組むことができる理工系人材育成パートナーシップの関係を恒常的に築くためのご支援・ご助言をお願いしたいと考えています。

今後、S I Cとの本学教員、学生を交えた定期研究会、セミナーの開催、研究プロジェクト企画・遂行などを計画させていただき、「教育」と「研究」をバランスよく探究できる環境を充実させ、学生たちにとって、最先端の技術に現場レベルで関われる貴重なチャンスを提供できると期待しています。

是非、宜しく願いいたします。

青山学院大学
相模原キャンパス
理工学部棟
(写真左右ともに)



【お問い合わせ先】

共同研究について：

青山学院大学 研究支援ユニット 課長 杉野郡二 TEL: 042-759-6056

セミナー等の開催について：

青山学院大学 学生支援ユニット 学務グループ

理工学研究科担当 遠藤 明 TEL: 042-759-6033

E-mail: aendo@jm-aoyama.ac.jp

<http://www.aoyama.ac.jp/college/science/index.html>

ご案内

相模原市からのご案内

～平成21年度 相模原市産学連携スタート支援事業～

～大学等と連携した共同研究による技術開発を支援します～

相模原市は、市内中小企業者が大学等との産学連携による研究開発や技術開発を促進するため、共同研究等に必要の費用の一部を補助します。

産学連携による技術力の向上や製品・技術の高付加価値化を目指す企業の皆様は、是非ご応募ください。

1. 補助対象事業

中小企業者が自ら大学等と行う新技術・新製品開発、既存技術の高度化に関する研究テーマで下記が対象。

1. 共同研究
2. 委託研究
3. 試験・分析・技術指導

2. 補助対象者

市内で1年以上継続して事業を営み、補助対象事業を市内で行っている中小企業者。

☆1年未満であっても、SIC入居企業は対象となります。

3. 補助の内容

●補助額は経費の2分の1以内（上限25万円）。

ただし、市内の大学等と共同研究等を行う場合の補助率は

3分の2以内。

●平成21年4月以降に開始し、平成22年3月までの年度内に大学等との共同研究・受託研究契約に基づき、大学等に支払う経費が対象。

4. 申請期間

平成21年5月1日（金）～7月31日（金）

5. 申請方法

申請書類をホームページからダウンロードし、直接お持ちになるか、郵送にて提出。

6. その他

受付は先着順。予算枠に達した時点で終了。平成21年度は10件程度を予定。

【お問い合わせ先】

相模原市 環境経済局 経済部 産業振興課

TEL: 042-769-8237

E-mail: in-pro11@city.sagamihara.kanagawa.jp

【シリーズ企画 企業支援の現場から・・・事業承継を考えましょう!】

中小企業の社長さん!
年齢が60歳を超えたら、事業承継を考えましょう!

川津公認会計士事務所
公認会計士 川津 文武

最近、企業の事業承継に関する「経営承継円滑化法」や「相続税・贈与税の納税猶予制度」など制度の整備が進んでいます。これも事業承継が企業の重要課題であるからに他なりません。中小企業の社長さん、ぜひ事業承継を考えてみてください。

□社長の年齢は60歳を超えていますか?

事業承継は人間(社長)の寿命は有限である一方、企業は長期的に継続していく可能性があり、両者の寿命が異なるため考える必要があるものです。また社長依存度の高い中小企業の場合、社長に万が一のことがあれば会社経営が不安定になり、従業員は給与がもらえず生活の糧を失う恐れや資金繰りが悪化し得意先・仕入先に迷惑がかかる恐れがあります。さらには社長の家族は、内情も知らず時間もないままに社長に代わって残された会社について、事業承継を実行しなければなりません。したがって事前に「将来、会社を整理するのか、次世代へ承継するのか?」を考えることは、従業員、取引先、社長家族など周囲の方々への不安・負担を和らげるものであり、経営者の責務なのです。

□事業承継は何を考えたらいいのですか?

事業承継は何を考え、何を決め、どのように進めていけばいいかわからず、承継を考えたことがない方もいるかもし

れません。商売の事業計画を練るときと同様に考えてみてください。商売の事業計画のときには、「何を:○製品を」「誰に:女性向けに」「いつまでに:1年後までに」「どうやって:ホームページを使って」販売していくなどと考えるはずですが、同様に、事業承継計画のときにも、「何を:株式の半分を」「誰に:長男に」「いつまでに:3年後までに」「どうやって:贈与制度を使って」移動していくなどと考えてみてください。

□承継相手と承継時期の社長構想をもって、ぜひ承継計画を!

事業承継計画を具体的に作成する場合に、顧問税理士等に相談しながら作成するにしても、承継をする決断・承継相手・承継時期は社長にその構想がないとその先の計画を練ることが難しくなります。社長はまず「誰に、いつ」この企業の将来を託すのかを考えることが重要となります。承継相手によって、経営の承継にどの程度の時間を見込むのが異なりますし、株式の承継を考える上でもその移動手法(売買・贈与等)をどう考えるのが異なってくるからです。

このように社長の年齢が60歳を超えたら、「誰に、いつ」の構想をもって、顧問税理士等へ相談してみましょう!そして事業承継計画を立て周囲を安心させてください。



境川 橋本あたり
SIC アドバイザー 権藤徹志さん画

★今月から、チャレンジショップを担当の飯山インキュベーションマネージャーの「飯山のいい店み〜つけた!」と「山本のめし屋レポート」を隔月で掲載してまいります。お楽しみに!!

飯山のいい店み〜つけた! ~コーヒーに浮かぶ♥の秘密~ 「ジャングルヘッズカフェ」

店内は都内の店舗かと思うような素敵なデザイン。

それもそのはず、マスターの宇都山さんは元雑誌の編集者でデザインにも造詣が深くこだわりを持って作ったお店。

マスターはニュージーランド放浪中(?)にカフェ目覚めた、とのこと。

エスプレッソをお願いすると、赤いエスプレッソマシンが音を立てる。

高压で熱湯が出てくる。

圧力や温度は、その日の天候に合わせてマスターがコントロールする。

コーヒーのプロだけでなく、一般の方も飲みやすいように、

ミルクが入り酸味も程よくなっているハートマークのカプチーノを飲んでみる。

このハートマークは、『バリスタ』と呼ばれるスペシャリストが卓越した技術で

コーヒーの上に模様を描くもの。

昨年12月、「コーヒー1杯を、素敵な空間で楽しんでほしい」とオープンした。

価格もコーヒー300円〜とお手頃です。アルコール・ランチ・ディナーもあります。

素敵なコーヒーが相模原で飲めますよ。



←
コーヒー1杯
無料!!

5月末日まで「SICかわらばら」をお持ちいただいた方は

■住所 相模原市千代田7-5-19 ■Tel.042-855-4951 ■営業時間 11:00~22:00 ■月曜定休 駐車場有り ■http://www.jungleheadz.sblo.jp/

編集後記

4月27日から、SIC-1のロビーに『企業広報スポット』コーナーを開設しています。SICのホームページにも連動して、展示企業さまを紹介させていただく予定です。5月は、(株)青電舎さまとサンマルコ(株)さまの2社を紹介させて頂いています。第一回目の募集期間は過ぎましたが、継続して募集を続けて参りますので、どうぞご応募ください。お待ちしております。 荻島

★ご意見・ご感想をお待ちしています。(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒229-1131 相模原市西橋本5-4-21 電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 ホームページ: http://www.sic-sagamihara.jp E-mail: koho@sic-sagamihara.jp